

群馬県立高崎高等学校(全日制) 学校評価一覧表 令和5年度版

(様式1)

羅 針 盤			方 策		点検・評価			達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策		自己評価	外部アンケート等	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。(全体・生徒部・SSH部)	1 3F精神に基づいて、全校をあげて特色ある教育活動に取り組んでいますか。	① 3F精神に基づく取組を、生徒の90%以上が本校の特色として認識している。	<ul style="list-style-type: none"> 3F精神と各種教育活動との関わりを明確にして、生徒と教職員で共有する。 生徒一人ひとりが学校生活の中で3F精神に根差した活動を日々積み重ねられるように指導し、認め合い、高め合える集団づくりを行う。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○3F精神を本校の特色として93%の生徒が認識しており、その認識に基づいて諸活動が実施されてきた。 ○学校行事が充実していると97%の生徒が感じている。次年度も翠碧祭の成功、定期戦の勝利に向けて学校全体で取り組み、達成感を感じさせたい。また、部活動が充実していると93%の生徒が感じている。県高校総体において総合6位に入賞を果たすことができたが、次年度は成績をさらに上げられるように、部活動の活性化に努めたい。ボランティア活動については、生徒会やJRC部を中心に、古紙回収や募金活動等、積極的な取組が見られた。次年度は活動の範囲を広げていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○全国に誇ることができる、特色ある高校となっている。生徒達の自主性を重んじた活動は誇りにある。多くの生徒が学校行事や部活動に意欲的に取り組んでおり、文武両道を実践できている。生徒達の活動を撮影した動画を作成し、広く広報してもらいたい。基礎学力の定着と学校行事等の充実のバランスが課題である。 	
	2 「真の文武両道」実現に向けて、学校行事、生徒会活動を充実させていますか。	② 生徒会諸行事・定期戦・翠碧祭の成功。学校行事が充実していると感じている生徒が90%以上である。 ③ 部活動加入率の増加・高校総体総合上位入賞。上位大会への出場数を増やす。部活動が充実していると感じている生徒が90%以上である。 ④ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会総務及び実行委員等と連携を図り、コロナ禍でも最大限実現できるような各行事の指導助言を行う。 部・部顧問との連携を強化し、施設等の効率的な活用を推進しながら県内入賞種目を増やす。 ボランティア活動を全校で積極的に取り組めるよう、生徒会総務を中心に活動を進め、地域と連携を図っていく。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○SSH企画評価会議評価者(外部の有識者)による中間評価(指定3年目の評価)において、高い評価を得ることができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ○目標や目的が明確であり、生徒が意欲的に学校生活に取り組んでいる様子がうかがえる。 	
	3 (SSH事業)課題研究やクロスカリキュラムは全職員体制で取り組んでいますか。	⑤ 指導案や授業の動画記録等で再現可能であり、目的が明確なクロスカリキュラムの実践事例が10事例以上ある。 ⑥ 教材開発・授業検討を含めて、クロスカリキュラムの取組みをしたことのある教員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> クロスカリキュラムの目的や授業をデザインするときの視点を研修等で共有する。 教務部と連携して授業改善研修のテーマとしてクロスカリキュラムの開発に取り組み、全校体制で実践する。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○クロスカリキュラムの実践事例は26例あり、指導案11例およびクロスカリキュラムの職員研修資料をWebページで公開している。クロスカリキュラムの取組をした教員は83%であった。課題としては、目的を明確にした実践をカリキュラムに位置づけて実施できるかである。 		<ul style="list-style-type: none"> ○クロスカリキュラムを実施する上で、課題を共有し、さらなる高い目標設定を適切に進めてもらいたい。 	
	4 (SSH事業)サイエンス・プロジェクトⅠ・Ⅱβ・ⅢにおいてR-PDCAサイクルを実践する中で課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を育成していますか。	⑦ 「課題研究の進め方」や「本校の課題研究の事例」等を紹介したポータルサイトを作成・公開できている。 ⑧ 1学年及び2学年全体それぞれで課題研究終了時にR-PDCAサイクルの一連の流れを経験している生徒が80%以上である。 ⑨ 3学年全体で分野の魅力や諸課題について整理・分析を行い、自身の考えを明確に表現できている生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、教職員がいつでも参照できる「課題研究ポータルサイト」を作成し、生徒が反転学習として学べるようにして個別最適化を図り、研究時間を確保する。 1学年においては、「素朴な疑問」をテーマとした「学術型」の課題研究を行い、問いの設定から仮説の検証までのR-PDCAサイクルの一連の流れを経験する。 2学年においては、1学年の課題研究の実践を継承しながら、社会課題をテーマとして解決するR-PDCAサイクルを実践する。 3学年においては、「自身のキャリア」をテーマにした課題研究を実施し、進みたい分野の魅力や諸課題について整理・分析するとともに、自身の考えを明確に表現できるようにする。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○課題研究ポータルサイトを作成し、本校生徒・職員に公開している。1～3年生すべてで実施体制が構築できており、100%の生徒が課題研究を実施している。課題研究の質をさらに高められるように工夫していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○SSH活動を推進する上で、卒業生にこだわることなく、広く県内の企業と連携することも検討してもらいたい。 	
	5 (SSH事業)SSHクラスのサイエンス・プロジェクトⅡα・Ⅲにおいて、理数やデータサイエンス分野のR-PDCAサイクルを実践することで、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を深化させていますか。	⑩ 2学年において外部発表を経験している生徒が20%以上である。 ⑪ 3学年において外部の論文コンテストへ応募した研究が25%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 2学年においては、早期にテーマ設定を行い、発表会を多く経験することでR-PDCAサイクルを複数回まわし、課題研究の質を高められるようにする。 3学年においては、外部の論文コンテストに出場する前提で質の高い研究を行い、統計的なデータ処理等に基づいた考察を行い、研究論文にまとめる。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○2学年SSHクラスにおいて外部発表を100%の生徒が経験した。3学年において外部の論文コンテストへ応募した研究は81%であり、6テーマが全国レベルで受賞することができた。生徒の負担にすぎないようにしながらも、より高いレベルを目指して挑戦させていきたい。 ○科学オリンピックと課題研究系のコンテストに100名を超える生徒が参加した。物理チャレンジで優良賞を獲得し、国際物理オリンピック日本代表候補者に選出されるなど、全国レベルのコンテスト等で多くの生徒が受賞することができた。引き続き、活動の活性化を図ってきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○コンテストや科学オリンピックへの参加は進路実現においても効果的であるので、積極的に取り組んでもらいたい。 	
	6 (SSH事業)理数系部活動及びスーパーサイエンス部の活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに、より高いレベルを目指して主体的に学ぶ態度を育成していますか。	⑫ 科学オリンピック系や課題研究系のコンテスト等への参加者が50名以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 理数系部活動やスーパーサイエンス部を中心に、外部コンテストに関する情報を共有し、積極的な参加を促す。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に97%の生徒が満足している。学期ごとに実施した授業アンケートの結果をもとに授業改善に努めた。さらに充実した授業になるよう努力を継続する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○授業を参観した際、生徒の興味・関心をひく授業づくりに取り組んでいる様子を感じた。 	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。(教務部・広報渉外部)	7 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑬ 授業に満足している生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態把握に努める。また、教員一人ひとりが生徒の学力向上を目指し、日々授業改善に努める。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○進路目標に応じた学力を身につけたと、3年生の94%、全体では81%の生徒が自己評価している。新しい「学力観」に基づいた学習指導と評価の一体化を通して、さらなる意欲向上を図りたい。また、同時にゆるぎない基礎力を身につけられるように努力を継続する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○満足度の高い授業が行えている。教員が教材研究力を尽くし、自信をもって授業を行うことが大切である。 	
	8 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑭ 進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 新しい「学力の観点」に基づき、教員一人ひとりが、評価と一体化した指導を行うことで、生徒の学びを励まし、学力向上を促す。また、生徒自身も自らの学習成果について、自己評価を行う。 		A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○シラバスを93%の生徒が高く評価している。3年間の目標を意識して学習に取り組めるように、シラバスの効果的な活用を継続する。また、全教員が授業研修を年1回以上実施することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ○綿密なシラバスが作成されており、その成果が表れている。 	
	9 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進していますか。	⑮ 全教員が教科横断型または教科専門型のいずれかの授業研修を年1回以上実施する。 ⑯ シラバスを評価する生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 教科内の、また教科の枠を超えた教員同士の授業参観と指導方法の研修を推進する。SSH部との連携のもとクロスカリキュラムを推進する。 シラバスを日常的に活用する。 		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書委員会を中心に読書習慣の育成に向けて年間を通してイベントを実施した。「図書館だより」も月1回発行することができた。しかし、貸出冊数および図書館利用者数については、高い数値目標を設定したこともあり、目標に届かなかった。図書館利用を促す取組を継続、工夫していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○クロスカリキュラムの取組は、生徒だけでなく、教員の連携や能力向上にも役立っており、良い取組である。 	
	10 生徒の読書習慣を早期に育成していますか。	⑰ 貸出冊数が3,000冊を超える。 ⑱ 全生徒の60%以上が図書館を利用する。 ⑲ 「図書館便り」の年10回発行。	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション等で読書指導を行う。 「群青」を活用し、読書感想文コンクールへ意欲的に取り組ませる。 書庫の整理を定期的に行う。 「図書館だより」及び「図書館報」を発行する。 SSH関連図書を整備と活用促進を図る。 		B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読書については、各教科の授業において読書せざるを得ない場面を設定することも検討してもらいたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○読書については、各教科の授業において読書せざるを得ない場面を設定することも検討してもらいたい。 	

群馬県立高崎高等学校(全日制) 学校評価一覧表 令和5年度版

(様式1)

羅 針 盤			方 策		点検・評価		達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	達成度	達成度	達成度		
				自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切に指導をしていますか。(生徒部・保健環境部)	11 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑳ 生徒部の会議等において、生徒に関する情報交換を月に2回以上実施し、共通理解のもとで指導にあたる。 ㉑ 学校生活において挨拶をしていると認識している生徒が80%以上である。	・生徒部会議、教育相談会議において、様々な立場から把握した情報を共有する。共有した情報をもとに、全教職員が生徒一人ひとりに対して丁寧な指導を行う。 ・各学期、生徒会本部役員による挨拶運動を実施する。 ・各学期、PTAとのマナーアップ運動を実施する。 ・毎朝、生徒部職員による挨拶・交通指導を実施する。	A	A	A	○生徒部会議、教育相談会議、学年会議により、生徒に関する情報交換を月3回以上行った。課題をかかえる生徒が増加傾向にあるので、職員間での情報共有、指導方針の確認を次年度以降も徹底していきたい。また、学校生活において挨拶をしていると92%の生徒が認識している。引き続き、TPOに応じた挨拶等を自然にできるように助言していきたい。	○良好な状態にあると思う。交通事故やいじめの防止に関して指導を着実に継続していくことが大切である。 ○課題をかかえる生徒は義務教育段階から増加している。職員間で情報共有し、組織的な指導を今後も継続してもらいたい。
	12 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	㉒ 学校はいじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると生徒の80%以上が認識している。	・「学校いじめ防止基本方針」を説明する。 ・いじめ問題に対して早期対応が図れるように、観察と情報収集を適宜行う。 ・いじめの解消については丁寧かつ慎重に行う。また、スクールカウンセラーを適切に活用し、教育相談体制を充実させる。	B	B	B	○いじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると83%の生徒が認識している。いじめの防止や対応については、法律に基づき、組織的対応を行った。 ○自身の健康管理に92%の生徒が努めている。「保健だより」を毎月発行し、健康関連情報を発信するとともに、産業医による巡回指導を定期的実施してきた。また、学習環境が快適であると92%の生徒が感じている。施設に関して、冷暖房の完備と生徒の机と椅子の入替が次年度以降の課題である。	○教室は高校生40名が学習するには狭いように感じる。また、机や椅子も、ノートパソコン等の使用も考えた上で新調してもらいたい。
	13 生徒は健康で、規則正しい学校生活をおくっていますか。	㉓ 自身の健康管理に努めている生徒が90%以上である。 ㉔ 学習環境が快適であると認識している生徒が80%以上である。	・「保健だより」やその他の健康関連情報を適宜発信する。 ・生徒の健康状態・定期健康診断の結果を踏まえ、必要に応じた処置や受診指導を行う。 ・職員及び生徒保健委員による校内巡視や環境測定を定期的実施し、衛生的で安全な学習環境を維持する。 ・冷暖房や照明等の適切な使用の指導、及び施設・設備の点検・整美を行い、必要に応じて机や椅子などの入れ替えに対応する。	A	A	A	○自転車の着用率はかなり高いが、100%ではない。自分の身を守るという観点から着用の徹底に向けて指導を継続する。駐輪場での、対人・対自転車・対車の事故は特になかった。	○ほとんどの生徒が自身の健康観に努めているのはたいへん望ましい。保健指導と家庭との連携の成果である。
	14 交通安全を推進していますか。	㉕ 自転車重大事故0件。 ㉖ ヘルメット着用率100%。 ㉗ 駐輪場でのトラブルを無くす。	・交通ルールを遵守し、危険予測のできる自転車運転を身につけさせる。 ・全校生徒の交通規範が定着するよう組織的な交通安全指導を行う。 ・自転車駐輪場の遵守、自己管理の徹底を図る。	B	B	B		○交通事故について、被害者にも加害者にもなる可能性があることを具体的に示し、家庭と連携して指導を徹底してもらいたい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。(進路部)	15 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てていますか。(進路部)	㉘ 学習量(学習時間)を増加させる。 部活動中は、平日平均で最低2.5時間を達成する。 部活動引退後や調査前は、平日平均で最低3.5時間を達成する。 ㉙ 高い志を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組んでいる生徒が90%以上である。 ㉚ 本校の進路行事や進路関係資料に満足している生徒が90%以上である。	・各授業で、学ぶ意味とともに考え、生徒の意欲を高める。 ・教科指導力の向上とやるべきことの精選。 ・教科・学年・進路部での意思統一とツラパスの活用。 ・各進路行事・集会の質を高めるとともに、その意味を正しく伝え、志を育て、夢を育む。 ・各種進路行事への参加を促し、社会に対する問題意識を高める。	A	B	B	○学習時間の目標値に達している生徒は1、2学年で約50%であった。特定の調査期間における達成は見られるが、部活動が中心となる期間においても、自ら学ぶ姿勢を継続させるために、部顧問とも連携して学習習慣の確立を目指したい。3学年では部活動引退後に90%以上の生徒が目標値を達成していた。また、高い志を持って、その実現に向けて89%の生徒が意欲的に取り組んでいる。1、2年次からより高い水準を目指して取り組めるよう指導を徹底したい。進路行事や進路関係資料に対しては、97%が満足していた。	○1、2年生の学習時間について、部活動や課題研究等に意欲的に取り組むことで少なくなっているのであれば大きな問題ではない。 ○将来の目標や進路を早い段階で定めて、その実現に向けて取り組ませることも大切ではあるが、低学年のうちには、多様な価値観や文理にとらわれない思考の育成を図ることも検討してもらいたい。
	16 生徒が自ら進路について考え、進路実現に向けた行動をしていますか。	㉛ 1学年では、文理選択を具体的に考えている生徒が80%以上である。 ㉜ 2学年では、第一志望校に向けて計画的に学習している生徒が80%以上である。 ㉝ 3学年では、第一志望校を定めて計画的に学習している生徒が90%以上である。	・進路通信の発行や学年集会を開催することで、進路に関する情報を積極的に発信し、具体的な進路目標を早い段階から意識させる。 ・面談を効果的に行い、助言を与えながら、生徒に自信を持たせる。 ・現状分析を踏まえた共通テスト等への迅速な対応と、3年間を見通した指導を推進する。	A	B	A	○1学年では、将来の目標から逆算して文理選択を決定することができた。また、第一志望を定めて計画的に学習している生徒は、2学年で72%、3学年で98%であった。学年が上がることによって進路意識の向上が見られる。低学年のうちから、志望校に向けて計画的に学習に取り組めるよう指導を継続、工夫したい。	
	17 PTAから信頼される学校と なっていますか。(広報渉外部)	㉞ PTA総会の出席率が50%を超える。 ㉟ 学年保護者会の出席率が80%を超える。	・PTA総会への積極的な参加を促し、内容の充実・発展に努める。 ・学年保護者会への積極的な参加を促し、内容の充実・発展に努める。 ・日常的に保護者にとって有益と思われる情報発信に努めるとともに、保護者の声を拾うことに努める。	A	A	A	○PTA総会の出席率は約54%、学年の保護者集会もオンライン併用の集会もあつたが概ね80%を超えることができた。また、各学年1回ずつ授業公開も行うことができた。次年度以降、さらに出席率を伸ばすことができるよう内容等工夫していきたい。	○高いレベルで「開かれた学校づくり」が進められている。生徒にも、「開かれた学校づくり」の意味や意義を理解させることが大切である。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。(広報渉外部)	18 同窓会から大いに支援される学校となっていますか。	㊱ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㊲ 「先輩教えてください！」を40以上の事業所で行っていただくとともに、内容の充実・発展に努める。	・同窓会報や理事会等で学校の現況を積極的に発信するとともに、幅広く同窓会員の声を拾うように努める。 ・「先輩教えてください！」事業の絶えざる改善及び発展に努める。	A	A	A	○同窓会会報や会議において、学校の現況として行き、積極的な情報発信を行ってきた。引き続き、積極的な情報発信を行ってきたい。「先輩、教えてください！」事業では45の事業所を訪問することができた。SSH事業と連携し、生徒の主体的な活動とすることができた。	○コロナウイルス感染症が落ち着いたことで、授業公開をさらに増やしてもらいたい。
	19 地域から信頼される学校となっていますか。	㊳ 「翠巒セミナー」に地域の方5人以上の参加をいただくとともに、その内容の充実・発展に努める。	・地域の方々へ本校の存在意義を認識していただく。 ・「翠巒セミナー」などの行事を地域の方々にも周知する。	A	B	B	○数年前ぶりに翠巒セミナーを開催できたが、地域の出席は1名であった。呼びかけ方法等を工夫したい。	○外部の方による講演会は今後も継続してもらいたい。翠巒セミナーについては、広報活動かを入れることで参加者を増やせようと思う。同窓会等の組織も適切に活用してほしい。
	20 学校ホームページ等を活用して地域に向けて情報を発信していますか。	㊴ 月1回以上ホームページを更新し、常に最新の情報を発信する。	・随時、各部署に情報提供を呼びかけるとともに、学校行事等の様子を学校ホームページに掲載していく。	A	A	A	○学校における教育活動の様子を随時Webページにアップし、情報発信に努めた。Webページやメール連絡網から、学校からの必要な情報が伝わっていると、96%の保護者が回答している。	○地域において、挨拶や交通ルールの遵守を徹底していくことで、地域からの信頼を高めることができると思われる。
	21 ICTを活用した指導を行っていますか。(情報課)	㊵ ICTを活用した授業に、生徒の90%以上が満足している。 ㊶ 教員の80%以上が、ICTを適切に授業に活かすことができる。 ㊷ 生徒の90%以上が、ICTを有効に学習に活用できると考えている。	・全ての教員が各自の授業の中で適宜ICTを用いた指導を立案、実践できるように努める。 ・ICTの適切な活用方法を指導する。	B	C	B	○ICTを適切に授業に活かすことができていると85%の教員が考えている。また、ICTを活用した授業に満足している生徒は88%、ICTを有効に活用できている生徒は81%であった。ICTの有効活用について、生徒がICTを活用する機会が増えるような指導の工夫等、さらなる授業改善に努めたい。	○ICTは、目的ではなく手段であることを念頭において指導を行うことが大切である。
22 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㊸ オンラインによるアンケートを年3回以上実施している。 ㊹ オンラインによる通知の割合が50%以上である。	・デジタルツールを用いて簡単にアンケートに答えられるフォームを作成して利用できるようにする。 ・極力、紙媒体からデジタル通信への変換を図る。	A	A	A	○オンラインによるアンケート、連絡を大いに増やすことができた。今後も継続していきたい。	○授業を参観した際には、適切にICTを活用できていた。ICTを活用して、生徒の興味・関心を引き出す授業が行われていた。	